

# 「向日庵」保存へNPO設立



寿岳一家が暮らした「向日庵」。保存に向けてNPO法人が活動していく(向日市上植野町)

## 英文学者・故寿岳文章氏の邸宅

英文学者の故寿岳文章氏が向日市上植野町に構えた邸宅「向日庵」の活用に向け、地元住民や作家らがNPO法人の設立を計画している。民芸運動や和紙研究の先駆者としても著名な寿岳氏に関する資料のデータベース化やイベント開催を通じて邸宅の文化的価値をアピールし、保存の必要性を訴える。30日に設立記念講演会を開き、賛同者を募る。

向日庵は約80年前に建築された木造2階建て約130平方メートル、民芸の意匠を取り入れた近代和風建築として高い評価を受ける。長女寿子氏が亡くなった2005年以降は空き家になり、知人が維持管理してきたという。



故寿岳文章氏

寿岳文章氏 1900〜92年。ダンテの「神曲」の翻訳や詩人ウイリアム・ブレイクの研究で知られる。柳宗悦らと親交を結び、民芸運動に草創期から参加。向日庵には民芸関連の文化人が集った。全国の和紙産地を踏査し、資料を収集。妻の故しづ氏は翻訳家・随筆家として、長女の故寿子氏は国語学者として、それぞれ著名。

## 30日記念講演 「活用道筋つけたい」

法人の名称は「向日庵」とする。没後10年の節目に地域住民らが寿岳一家の業績を顕彰するために立ち上げた研究会を母体とし、関係者が昨春秋に設立準備を始めた。準備会の事務局を務める和紙造形作家伊部京子さん(75)は「向日市寺戸町」は「親ずつ代にわたる『知的生産現場』がそのまま残されている。現状がいつまで続くかは不透明で、保存・活用に向けた動きを本格化させる必要がある」と語る。

今後、向日庵に眠る英文学や民芸関連の資料の調査研究やデータベース化、和紙関連の展示会などを構想している。講演会の開催やホームページでの情報発信などで、「保存に向けた機運を高め、公的施設としての活用」に道筋をつけたい(伊部さん)とする。

記念講演会は、向日市上植野町の西向日コミュニティセンターで30日午後1時半から。講師は寿岳氏の業績を研究する甲南大文学部の中島俊郎教授。無料。定員50人(要予約)。申し込みは、設立準備会の中村隆一さん携帯電話090(7555)8497。

(本田貴信)